



中国がわかるシリーズ 23 貞観の治（中）

ライフネット生命株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

628 年、玄奘が国禁を犯してインドへ出発しました。ソグド商人が行き交うシルクロードは、西突厥の支配の下に、よく整備されていました（この時期のソグド商人の売買契約書は、現代のものとは比べても遜色がありません）。そして、この時期は、幸運にもハルシャ王により、北インドも安定していたのです。ナーランダ一僧院で学んだ後、645 年に帰国した玄奘は、「大唐西域記」というレポートを太宗に提出し、以後、持ち帰った経典の翻訳に生涯を捧げました。

玄奘の知見は、太宗の西域支配に寄与するところが大きかったものと思われます。なお、玄奘の新訳は、訳文の正確なことで知られていますが、意識を旨とした鳩摩羅什の文章の流麗さには及ばないとする意見もあります（671 年には義浄が海路インドに渡り、691 年に「南海寄帰内法伝」を著しました。武則天は、義浄を厚く遇しました）。玄奘は、後に、三蔵法師として「西遊記」の主人公となります（因みに、孫悟空のモデルは、「ラーマヤナ」の猿王ハヌマーンでしょう）。

630 年、唐の名将、李靖は、東突厥の頡利可汗を捕え、東突厥（第1帝国）は一時滅亡しました。精強な突厥の滅亡に驚いた西域の諸族長は、太宗に天可汗の称号を贈ります。太宗は中国の皇帝位と草原世界の可汗位を初めて一身に兼ね備えたのです（これが、後の大元ウルスや大清の皇帝の先駆となります。いわば、ヨーロッパの同君連合のようなものです）。

太宗は、（柔然、突厥やウイグル同様に）ソグド人を中核とするシルクロードの商業民を、積極的に帝国内に取り込むとともに、西域の諸部族の内政構造には手をつけず、個々の族長を監督する羈縻支配を採用しました。そして、その外側の諸国については、冊封関係を基本としたのです。なお、和蕃公主と呼ばれる婚姻政策も、唐と西域諸国の関係を安定させる上で大きな役割を果たしました。

641 年、チベットのソンツェンガンポに嫁いだ文成公主は、チベットの発展に貢献したことで、現在でも崇敬されています。唐の西域への進出に伴って、西方の文物も首都、長安に大量に流入しました。太宗の時代、ゾロアスター教（祆教）は既に長安に入っており、景教（キリスト教ネストリウス派）が 635 年に伝来しました。やがて、マニ教も伝えられることになるでしょう（694 年伝来）。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

長安の歓楽街では、白皙碧眼の美姫が客席に侍っていました(胡姫が得意とした胡旋舞は、唐詩にも謳われています。現代のリボンを用いた新体操のようなものであったのでしょうか)。シルクロードでは、奴隷貿易が盛んに行われていました。長安は、ニューヨークのような国際都市に変貌しつつあったのです。当時の長安は、現在に比べれば、気温が 2~3 度高かったそうです。太宗の時代、まさに、花の咲き乱れる長安の春が到来したのです(ただし、隋末期の戦乱の後遺症は大きく、太宗の 23 年に及ぶ善政をもってしても、隋の文帝時の国勢には及ばなかったと言われています)。